

(参考1) 身の回りにおけるJISの事例

- 標準化とは、一定のルール（標準）に従って形や寸法などを定めることにより、共通して利用できる（互換性）、安全に利用できるようにすること。
- 産業界（ビジネスの観点）では、部品等の大きさや質、生産工程の統一化を図ることにより、大量生産、コスト削減が可能となる。

● 乾電池の大きさ・電圧



JISマーク

● マッチ



品質：
頭薬の付着強度、発火性能、
軸木の折れにくさ、箱の引出し
にくさ、など

JIS S4001: 安全マッチ

● 蛍光灯



寸法：口金
長さ（直管）
外径（丸形）
ガラス管の径



品質：色・明るさ
消費電力
寿命

【高齢者や障害者にも配慮した設計の標準化】

● 牛乳パックの切り欠き

切り欠き



● 誘導ブロック

突起の形状や寸法及
び配列方法



(参考2) 身の回りにおけるJISの事例

具体的に何が「標準化」されているのか。

【例】鉛筆 (JIS S 6006 : 2000「鉛筆、色鉛筆及びそれらに用いるしん」)

■ 種類

・9H~2H、H、F、HB、B、2B~6B

■ 品質とその試験方法

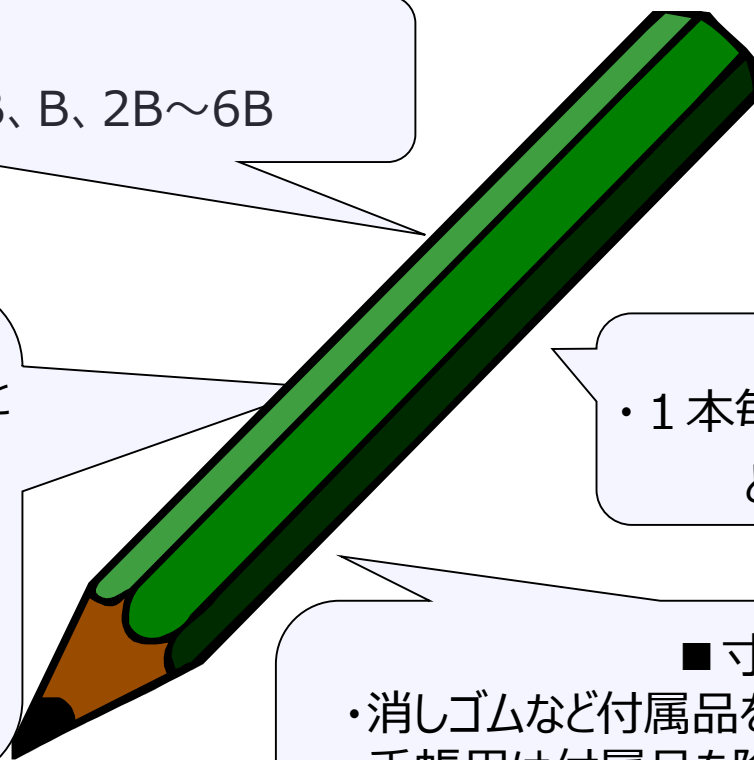
- ・抜けしん試験でしんが抜けないこと
- ・軸の曲がり量が0.4mm以下
- ・しんの偏心が0.3mm以下
- ・軸の塗料の有害物質の制限
- ・しんの曲げ強さ
- ・HBの濃度

■ 表示

- ・1本毎に種類（硬度記号）と製造者名を表示

■ 寸法

- ・消しゴムなど付属品を除き172mm以上
- ・手帳用は付属品を除き70mm以上
- ・軸径は8.0mm以下
- ・しんの直径は9H~2H、Hは1.8mm以上、F、HB、B、2B~6Bは2mm以上



3. ISO/IEC Guide50(JIS Z8050)の作成経緯

① ISO/IEC Guide50(JIS Z8050)を作成する理由

●作成理由

傷害の防止は、社会全体で共有すべき責任である。課題は、子どもが死亡又は重傷を負う可能性を最小限に抑えることが実現できるように、製品等を作成すること。

●このガイドの使用者

(子どもの安全性に配慮した規格開発の促進を図るため、) 規格、仕様書及び類似の出版物を作成又は改正する専門家に対する指針として、ISO/IEC Guide50 (以下、ガイド50) が作成され、2014年改正された。

(ガイド50より抜粋)

また、我が国においても、2016年12月、ガイド50との整合(一致)を図ったJIS Z8050を作成。

3. ISO/IEC Guide50(JIS Z8050)の作成経緯

② ISO/IEC Guide50の国内審議経過、及びJISZ8050作成の審議経過

- 研究機関、学識経験者、試験機関、消費者団体、関係メーカー（団体）、関係省庁（消費者庁、国土交通省、文部科学省、経済産業省）等、約50名から構成したガイド50国内対策委員会、及びJIS原案作成委員会〔委員長：持丸正明（国立研究開発法人産業技術総合研究所）事務局(一財)日本規格協会〕を設置し、ガイド50の国内審議、及びJIS原案の審議・作成を行った。

備考1. ISO/IECガイド50は、1987年制定され、その後、2002年及び2014年改正

備考2. JIS Z8050は、国際一致規格として2016年12月に制定

4. J I S Z 8 0 5 0 の概要

適用範囲

規格、仕様書及び類似の出版物を作成又は改正する専門家に対する指針を示す。

子どもの安全に関する一般的なアプローチ

・年齢区分の呼び方 ・リスクアセスメント ・危害の防止及び低減
・視野に入らない子ども ・障がいのある子どもへのニーズ

安全上の考慮事項

子どもの発達及び行動と不慮の傷害との関係

子どもの安全環境

子どもの物理的及び社会的環境の適切さ、並びに子どもの睡眠環境に関連する特別な配慮。

子どもに関連するハザード

製品の使用又は製品との関わりを通じて、子どもが影響を受けることがあるハザード、及びこれらのハザードに対処するための具体的示唆を取り扱う。

(ハザード) 機械的・落下、衝突、溺水、窒息、首の締付け、小さな物体及び吸引、火災、温度、化学的なもの、感電、放射（放射線、紫外線、光及び電磁波）、騒音、生物、爆発・火災せん光

保護方策の適格性

・製品による保護方策 ・据付けによる保護方策
・人に適用される保護方策 ・行動による保護方策
・説明書による保護方策

+ 参考：チェックリスト / (主要な) 傷害データベース (リスト)

5. 今後の予定

落とし込み

規格作成のための指針（ガイド）

JIS Z 8050
「子どもの安全の指針」

製品横断的な共通規格

製品横断的な基準や試験方法などを定めた規格

個別の製品・試験方法規格

製品・試験方法規格

JIS Z8050の普及啓発を図ると共に、左図の「製品横断的な共通規格」、「個別の製品・試験方法規格」のJIS開発を実施。

製品横断的な共通規格:

- ・子どもの安全性－設計・開発のための一般原則（H29年度JIS化予定）
- ・共通試験方法－隙間・開口部による身体挟み込み(※)

個別の製品・試験方法規格:

- ・CRライター(JIS S4803)（H22年制定、H29年改正予定）
 - ・子ども服のひも(JIS L4129)（H27年制定）
 - ・ブラインドのひも（H29年度JIS化予定）
 - ・ペンキャップ(JIS S6060)（H8年制定、H29年改正予定）
 - ・収納家具の安定性（転倒）試験方法(※) (※) (H29-31年度JIS原案作成予定)
- 規格名称は仮称又は略称

子どもの安全性に配慮した製品作りの促進が期待される。